

創立記念日に当たって

創立：昭和59年10月11日、県議会において設置条例が可決され設立認可

4月10日は、本校の創立記念日です。今から25年前すなわち、昭和60年4月10日市川市文化会館において、開校式並びに第1回入学式が行われ出発しました。以来、職員、生徒、保護者、地域社会が一体となり新生の学校づくりに励み、清新澁刺な校風を育みながら発展してきました。

平成23年度に市川北高校との統合が予定されたいる今、過去の歴史に学びこれからの新しい学校づくりに生かすことが重要であります。創設期からの主要な歴史と伝統を記念誌等からまとめ、その役割を果たしたいと考えます。

まず**校訓**の「誠実・忍耐・努力」は、生徒の皆さんが、日々誠実に努力するとともに、研鑽精進していく目標であり、次の意味が込められていました。

「誠実」は、**豊かな知性と教養を備え**、真理と平和を愛し、誠実に生き抜くことを目指すこと。 **(知)**
「忍耐」は、社会における自己の使命を自覚し、その形成者として必要な資質を養うために**自らを律し、耐え得る人間**を目指す。 **(徳)**
「努力」は、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ち、努力しつづける**心身ともに健康な人間**を目指すこと。 **(体)**

以上から、「**知・徳・体**」の調和のとれた人間形成が教育方針でありました。

校章は、学校が立地する場所が、萬葉の時代に真間の入り江と呼ばれ遠浅で、入り江の砂州に黒松が続いていたことに由来しています。

黒松は、市川市の「市の木」でもあり、郷土を愛することであり、針葉樹としてその姿が鑑賞に堪え品性が高いこと、とともに、「地域に根ざす学校」であり、「地域住民に親しまれる学校」の意味が込められています。また、3本の黒松は、「**知・徳・体**」の調和のとれた人間形成を目指すことを表しています。

校歌は、市川にゆかりのお二人の先生により創られ、これらの三つの問いは、作詞者の個人の問いでなく、誰に対してもどこからともなくやってくる問いで、それを校歌の中に歌い込み、在学中ばかりでなく、卒業後も口ずさんでほしいとの願いの込められているものです。

「空はなんのために青いのか」「虹はなんのために咲き出するのか」「人はなんのために生きるのか」を始め「遠い夢は必ず花を開く」などの歌詞は若者の心に響く雄大さを持っています。宇宙(そら)のモニュメントは、平成元年度卒業記念品として製作され中庭に設置されました。

開校間もない頃川の水位がたびたび上がり冠水するなどの悪条件を乗り越え、創立以来25年、各部活動の発展を図る中で全国大会や関東大会に出場するなどの成果も挙げるとともに、この間の卒業生は 余名に及び、市川市はもちろんこと、各方面に優れた人材を輩出しております。

創立記念日に当たって、「諸行事に情熱を傾ける自由でのびのびした校風の中で」自主・自律、豊かな個性を伸ばす教育の伝統を持つ学校として、先輩の培ってきた校風を発展させ、西高生として更なる誇りを持って活躍してほしいと思います。

創立記念日を前にして、このようなすばらしい学校に育てていただいた先輩方に改めて感謝を表すると共に、職員・生徒心を一つにして本校の一層の発展を目指して努力しようではありませんか。皆さんの自覚とがんばりに期待します。

「夢・挑戦・感動」